



首都圏情報コーナー

「うまさぎっしり新潟」佐渡フェスタ開催

新緑の櫛並木の下、去る5月20日から23日まで、東京原宿表参道の新潟館・ネスパスで恒例の「うまさぎっしり新潟」佐渡フェスタが開催された。東日本大震災の影響で人通りが途絶えていた表参道にも、以前の賑わいが戻って来た中で、イベントには馴染みの方を含め多数の方々が参加した。佐渡からは、早助屋、潮津の里、佐渡特選市場、さき織り工房 加藤が出店し、魅力いっぱいの佐渡特産品の販売に併せ、佐渡グルメが届けられ好評を博した。また、5月16日に新潟県知事をお迎えし、オープニングセレモニーが行われ一般公開された新たな観光スポット「大佐渡石名天然杉」に遊歩道が完成したことや、その「トレッキング」が紹介された。また、女子美術大学ファッション造形研究室の協力で今春、佐渡で行われた「Oni Art Project」により制作された衣装、灯籠が展示された。

初日は、「佐渡観光セミナー」が新潟館・ネスパス3階会議室で同時開催され、佐渡観光協会 事務局長 加藤 透氏が講演した。「天然杉の原生林と花の島トレッキング」と題して、樹齢700年から1000年に及ぶ「金剛杉」等、佐渡杉が屋久島杉や立山杉と並んで称されることなどが紹介された。参加者は関東一円から30名に及び、皆さん熱心に聴講した。また、トキの自然復帰について「トキ見物ツアー」の設定が今秋にも行われる見通しの発表があり、参加者の関心が高まった。講演後の質疑・応答では、紅葉の見頃の問合せや「車用の地図」の作成提案があった。これらの情報を基にして、多数の佐渡旅行客が期待される。

(文責：佐渡市東京事務所 榎谷端夫)



佐渡フェスタ



佐渡観光セミナー

ありがとうございました

～寄附のお礼～

佐渡市にご寄附をいただきました。
ありがとうございました。

- 東京両津の会様から東日本大震災の被災地からの避難者受け入れ支援に役立ててほしいと、32,935円をいただきました。

7月は“社会を明るくする運動”

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～ 強調月間です

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。

行動目標

- ①犯罪や非行をした人たちの立ち直りを支えよう
- ②犯罪や非行に陥らないよう地域社会で支えよう
- ③これらの点について、地域社会の理解が得られるよう協力しよう

重点事項

- 「立ち直りを支える取組についての理解促進」
- 「犯罪や非行をした人たちの就労・住居等の生活基盤づくり」

お問い合わせ

佐渡地区保護司会事務局

☎ 27-2571

随想

ゆめ飛行

No. 56

佐渡市長 高野宏一郎

GIAHS (世界農業遺産) 認定

土煙で、もやがかかったような北京郊外の会議場で、GIAHS国際フォーラムは開催されました。佐渡と能登は昨年12月、FAOに「世界農業遺産」の申請を行い、あらかじめ書類審査は進んでいましたが、ここ北京で最終審査に臨んだのです。

近世の佐渡では金山の開発で人口が急増し、食糧確保のため狭い土地まで開墾が進み、鉱山で開発された土木技術、揚水ポンプや送風機等が農業に利用されたことで開田も進みました。そして水田の美しい景観が形成されました。

当時金山の賑わいで豊かになった農家では、演能を楽しむなど比較的ゆとりある生活が到来しました。また、鬼太鼓などの芸能は今でも集落の結束を高めるなど、農業経営に重要な役割を果たしてきたのです。

そして、戦後農業が使われる時代になっても、小規模飯米水田には農薬の利用が少ないことから自然環境が守られ、野生のトキ最後の生息地となったのです。この農業文化や田園景観、そして生物が豊かな農地をつくる「朱鷺と暮らす郷証米」制度や景観条例の制定、さらに地域を挙げて島を美しくする運動などがあらためて評価されました。

この世界農業遺産は単に昔の遺産を大切にすればいいのではなく、将来に向けて持続性のある生きものがあふれる豊かな農業や、文化景観を守り、人々の生活が大切にされることの必要性が強調されていて、佐渡がその資格を有するとして認定されたのです。

これを機会に、我々は自分たちもあまり自覚していなかった佐渡の資源や魅力に誇りを持ち、能登との同時登録を機に両地域が交流を深めながら、ブランド力を高めようという絶好の手段としてとらえる必要があります。また今後のユネスコ世界文化遺産やジオパークの登録認定への大きな足掛かりともなると期待しています。

(題字 高野宏一郎)

